



環境省「ローカル・ブルー・オーシャン・ビジョン推進事業」に 生駒市と長崎県対馬市が全国初の共同申請で採択されました

海洋ごみ削減に向けた環境教育に連携して取り組みます

令和6年6月17日、本市は長崎県対馬市と共同申請で、環境省「ローカル・ブルー・オーシャン・ビジョン推進事業」に採択されました。今後、両市は SDGs 未来都市間連携として海洋ごみ削減に向けた環境教育に取り組みながら、学校間交流やキャリア教育を推進します。

当事業は創設から4年目となりますが、陸域と海域の自治体による共同申請で採択されたのは全国で初めてであり、奈良県及び長崎県の双方で県内初の選定となります。

■ 「ローカル・ブルー・オーシャン・ビジョン推進事業」とは

国内における海洋ごみの排出抑制対策の推進のため、自治体と民間事業者等が連携・協力した先進的な取組みを環境省が支援し、得られた成果・知見等を全国へと横展開することを目的としたモデル事業です。今回の公募では全国で4件が選定され、有識者の派遣によるコンサルティングや150万円を上限とした補助を通じて、事業プランの作成、連携体制の構築、効果・課題の検証等の取組み支援が受けられます。

■ 対馬市との共同申請に至った経緯

工具箱メーカーの(株)リングスター（営業本部／生駒市北田原町）は、令和4年に対馬市の現状を目の当たりにしたことをきっかけに、海洋プラスチックごみ削減に向けて新たな製品開発に着手しました。令和5年4月には、対馬市に漂着したオーシャンプラスチックを10%配合したアップサイクル製品の販売を開始し、現在10製品がラインアップ。売上の一部は対馬市に寄付しています。

また、同社は生駒市と対馬市の架け橋となり、学校間交流やキャリア教育など、学校教育への貢献を熱望。こうした同社のエシカルな取組みが起点となり、生駒市と対馬市は共同申請する運びとなりました。



■ 具体的な施策

- ・ 海を持たない生駒市の子どもたちが、(株)リングスターの取組みを介して対馬市の子どもたちとつながり、海洋ごみ問題への関心や当事者意識、郷土愛を高める環境教育（ESD）プログラムを開発し、同社の製品や海洋ごみを活用した教材とともに、授業パッケージを製作します。
- ・ 授業パッケージの製作過程では、奈良教育大学 ESD・SDGs センターと立教大学 ESD 研究所の両研究機関から、助言や確認などの協力を得ます。
- ・ 授業パッケージは、両市の小・中学校による学校間交流で継続的に活用するとともに、他自治体への普及・展開を狙います。

この件に関する報道関係からのお問い合わせ

生駒市 SDGs 推進課（課長 木口、主幹 吉村） ☎0743-74-1111（内線 2100、2101）